

編 集 後 記

松本歯学も第6巻に入り、その第1号をお届けできるのを大変嬉しく存じます。総説1篇、原著11篇、臨床2篇の合計14篇は、前号(第5巻第2号)と同じ最多論文数ですが、頁数の144頁は前号よりわずかに多く、今までの最多頁数となります。本誌創刊号(第1巻第1・2号)の編集後記を読むと、今後はたして原稿が順調に集るのかという心配の気持ちが汲みとれます。しかしこの分ですと、やはり創刊号に書かれている北村勝衛前学会長の“当分年2回の発刊であるが本学会が活発な発展をするのと相俟って、何れ年4回に、さらには毎月発刊に漕ぎつけたいものである。”というお言葉のうちの第2段階すなわち年4回もあながち夢ではないように思われます。今後とも一層のご協力をお願い致します。

原稿が沢山集ることは編集子として喜ばしいことに違いないのですが、中には編集に苦勞させられるものがあります。例えば日本文の場合、なぐり書きやくずし字のものは、専門家ならある程度判読できますが、植字関係者には困難です。さらに英語、とくに固有名詞などは、ブロック体で書くかタイプして頂かないと、誤植が多くなるばかりです。もう1つの問題は付図に関したことです。本文に比べ図が多すぎますと本文と図とが離れてしまうこととなります。形態学関係で図が多くなる場合には図をまとめて論文の最後に付けるよう工夫して頂けると幸です。また最近、学会などで使用した35ミリスライドをそのまま出されることが多くなりましたが、カラー写真はともかく、グラフ、見取図、表などは原図の方が仕上がりがきれいになります。図の大きさ(説明の字の大きさも含みます)や配列なども印刷になったらどうなるのかという事を考えて決めて頂きたいと思います。

昭和55年10月末日締切りの第6巻第2号の原稿が、さらに多くしかも体裁の整ったものが集ることを期待いたします。(枝 重夫)

松 本 歯 学	第6巻 第1号	(非売品)
	1980年6月25日 印刷	1980年6月30日 発行
編集兼発行者	加 藤 倉 三	
発 行 所	松本歯科大学学会 399-07 塩尻市広丘郷原1780 電話 02635-2-3100	
印 刷 所	電算印刷株式会社 390 松本市筑摩3270 電話 0263-25-4329	